

I. はじめに

かつて「不毛の地」と考えられていた湿地は、近年、野生動植物の生息地であるとともに、汚れた水を濾過し有害なものを取り除き生態系を再生させる、あるいは洪水を受け止め緩和する役割も果たすなど人間生活にとっても貴重な自然として、極めて高い価値が認められるようになり、その保全・持続的利用は重要な課題となっています。

国土地理院では、このような湖沼・湿原の保存や、環境と調和した利用の促進に必要な基礎情報を整備・提供することを目的として湖沼湿原調査を実施しています。基礎情報として整備するものは、各湖沼・湿原の基礎的な自然特性やその変遷等で、深淺測量(湖沼調査)、地形調査、土地利用調査などから得られる成果を、調査報告書と付図及びGIS用のデータとして提供することとしています。

湖沼湿原調査は、特別自然保護地域やラムサール条約に登録された湿地など貴重な自然を残している湿原、保全対策が課題となっている湿原などを中心に順次実施していく予定で、「勇払平野」は、最初の報告書としてまとめました。本調査報告は、ウトナイ湖や勇払湿原の自然特性や環境変化を理解し、自然と共生する地域づくりのための基礎情報として、広く活用していただきたいと考えています。